医系論文・面接（総合サポート） 2024 前期 演習1 採点基準 【講師・採点者用】

(1)総合評価

以下に示したように、A～Dの 4 段階で総合評価を行います。これは C 評価を標準として、総合的なパフォーマンスの優劣を表示したものです。また、後述する個別評価の合計に対応させることで、総合評価の確かさを裏づけ、高めるものです。

A:とても良い	B:良い	C:標準	D:悪い
81 点以上	66-80 点	51-65 点	50 点以下

第 1 回演習は以下の要件を満たしていれば、原則としてC評価になります。これに加えて、個別評価の加点要因（②）が多いとB 以上の評価になります。

課題文を概ね理解した上で、「共感的理解」について自身の経験を踏まえて具体的に論じている

なお、以下に例示するように、許容できない大きな難点があるときはD評価になります。

①字数の不足：記述が半分程度しかなく明らかに説明不足なもの
②理解の不足：課題文の理解に明らかな誤解があるもの
③内容の散漫さ：思いつきを連ねるだけで、論じたいことをしぼり込めていないもの
④見解の欠如：事例・事実（fact）をあげるだけで、自分の視点（opinion）を欠いているもの
⑤設問の把握：主題・条件等の把握が不十分で、解答内容が設問に対応していないもの
⑥表現力の不足：日本語として、意味不明な箇所が散見される

(2)個別評価

パフォーマンスの構成要素（観点）ごとに優劣を評価するのが個別評価です。観点の内容・説明は出題によって異なりますが、評価の安定性をはかるため年間を通じて同一の観点（理解力、独自性、論理性、表現力）を用います。各観点の説明の①を満たしていることが「標準=素点3」の目安で、②は「良い＝素点4以上」評価を与える場合の指標（加点要素）になります。

◆標準ルーブリック

観点	内容
理解力	①課題文に即してテーマを理解している
	②普遍的な課題としてテーマを理解している
独自性	①設問・課題文を踏まえた独自の課題発見（切り口）がある
	②他者の視点で振り返り、自分の考えを深めている
論理性	①主張が明確で、論旨に一貫性がある
	②主張に対して的確な理由がある
表現力	①一文が短く、概ね簡潔・明確な記述である
	②他者にわかりやすく伝える工夫・努力がある

◆今回のルーブリック

観点	内容	素点					比重	評点
理解力	①設問を踏まえた構成及び内容になっている ②論述に課題文の内容が適切に反映されている	1	2	**3**	4	5	×4	
独自性	①主題に対する独自の課題発見がある ②自身の経験が適切で、「私」や「医師」の視点で論述内容の考察がある	1	2	**3**	4	5	×8	
論理性	①視点・主張が明確で、これに対する説明・記述が一貫している ②説明・記述に懐疑的な視点があり、自問自答を通じて論理を深めている	1	2	**3**	4	5	×6	
表現力	①一文が短く、概ね簡潔・明確な記述である ②他者にわかりやすく伝える工夫・努力がある	1	2	**3**	4	5	×2	

(3)評価観点の説明

理解力

①設問を踏まえた構成及び内容になっている

「解説」に記したように、設問は解答にあたって「3 点」を踏まえることを求めています。これらを無視した答案は「標準」より低く評価します。また、「自身の経験」に気持ちを奪われ、課題文にまったく触れていない答案も同様に低く評価します。

②論述に課題文の内容が適切に反映されている

設問は課題文を「簡潔に」説明することを求めています。「共感的理解」の考察・論述の起点を明確にする趣旨です。これを端的に表現したのが「共感的理解と他者理解／自己認知との関係」です。なお、一般的に認知は表面的で、理解は本質的なものであり、厳密に言えば自己認知と自己理解とは異なります。ただ、今回は第

1回のテストでもあり、こうした厳密な定義・理解までは求めません。大切なことは論述内容に課題文との間に何からの接点があることです。たとえば、「自身の経験」や論述内容に「共感的理解と他者理解／自己認知との関係」の要素が認められるなど、それを適切に引用・表現した答案は「良い」以上の評価とします。

独自性

①主題に対する独自の課題発見がある

どんなに文章が上手でも、課題文の内容をなぞるだけでは独自性があるとは言えません。課題文の内容を参考にして、主題「共感的理解」に対する独自の課題発見があることが「標準」の条件です。課題発見とは「自身の経験」の中に「ある」や「わかる」などの気づきです。ある大学の出題では、「？」「サイエンス」と対置して、気づきを「！」「アート」と表現した例もあります。課題発見があれば、内容や表現に多少の拙さがあっても「標準」の評価とします。

②自身の経験が適切で、「私」の視点で論述内容の考察がある

設問は論述にあたっての条件を付しています。これが独自性の加点要素です。何よりも各自が切り出した「自身の経験」が、上記の課題発見にふさわしい具体例であることが求められます。設問の「なお書き」は視点を「医師」をめざす「私」に置き換えることで、理解と考察の独自性を引き出すことを狙いとしています。なお、「医師」の視点は不可欠ではなく、他人事でなく自分事として論述できていれば「良い」以上の評価とします。

論理性

①視点・主張が明確で、これに対する説明・記述が一貫している

論理とは順序であり、起点となるのが各自の視点や主張です。不慣れな人の文章は、起点となる視点や主張を定めきれずに、あれこれ思いつくままに連ねた作文になってしまいます。こうした答案は「標準」より低い評価とします。起点が明確に選択・設定されていて、これを軸とした論旨が一貫していれば「標準」の評価とします。

②説明・記述に懐疑的な視点があり、自問自答を通じて論理を深めている

論文の基本は主題・課題文に対する理解と考察を踏まえた[判断＋理由]です。だからと言って、理由だけを第一に、第二に、第三に…と連ねるだけでは単調で読み応えがありません。読み応えとは説明・記述の深さや広がりです。これを生み出すためには懐疑的な視点が必要です。懐疑とは課題文や自分の正しさを疑うことであり、その表れの一つが自問自答による説明・記述の深化です。小論文ゆえに深化に限界はありますが、問いかけを通じて深める・広げることができていれば「良い」以上の評価をします。

表現力

①一文が短く、概ね簡潔・明確な記述である

一つの文章に複数・多数の要素を盛り込むと、冗長な記述になってしまいます。要素をしぼり込み、概ね簡潔・明確で、主旨が正しく伝わるものであれば 3（標準）とします。

②他者にわかりやすく伝える工夫・努力がある

どうすれば他者に伝わりやすくなるか、言葉の選択や文脈に工夫・努力がみられる答案は、その程度に応じて 4（良い）以上の評価とします。なお、段落がなく、誤字・脱字が多いなど表現に拙さがある場合は適宜減点します。